

祈り、考え、 奉仕する 愛の教育

三育小学校の 現場から



東京三育小学校教諭
中村淳先生

横浜三育小学校教諭
岩崎太一先生

函館三育小学校教諭
草野知子先生

司会
福音社代表
島田真澄

全国に十校ある三育小学校は、「何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ」という聖書の黄金律を校訓に、子どもたち一人ひとりが神様に愛されるかけがえのない存在であることを何よりも大切にしています。

教師の影響力

——今日は三つの三育小学校から先生方に集まっていただき、キリスト教教育の意義についてお伺いしたいと思っています。皆さんは、三育小学校の先生になってよかったと思うのは、どんなところですか？

草野 いろいろな意味で、毎日子どもたちが私の予想を超えることをしてくれるので、面白いなと思っています。

——草野先生は、以前、沖縄三育中

学校で理科を教えておられましたか、中学生と小学生を教えた場合、大きな違いとして、どんなことがありますか？

草野 小学生の場合、自分で考え、自分で判断していくことを教えていく段階にあります。子どもに任せる規準が、中学生より、ちよつと少ないのかなと感じています。

——中村先生も、かつては北浦三育中学校の体育の先生でしたね。

中村 小学生は中学生よりも、

教師が教えようとすることをそのまま素直に受け止めていく感じがします。教師の影響力がより大きくなるということでしょうか。

岩崎 確かに大きいと思います。教師の発言によって、子どもたちは大きく変わっていきます。

草野 小学校の場合には、家庭に帰れば、保護者の価値観の中に子どもが置かれ、学校に來たときには教師の価値観の中にあるという意味で、影響力が強いのは、やはり家庭なのかなと思います。

——そのときに、家庭の価値観と学校や教師の価値観が異なっていた場合、子どもが戸惑うことはありますか？



中村 これをプラスに考えれば、たとえば、キリスト教の背景のない家庭では、子どもが学校で賛美歌や聖書の言葉を覚えて、家庭の中で披露することを考えれば、逆に親も子どもから影響を受けるわけです。子どもたちの成長や優しさが家庭の中にあふれたときに、親も変わっていくのではないかと思います。

三育教育の特徴

——三育小学校と他の小学校との決定的な違いは何だと思えますか？

草野 三育小学校は、教師中心でも、子ども中心でもなく、神様を中心にするすべての活動が行われています。これが、いちばんの違いだと思います。

岩崎 三育の学校はすべて同じ価値観と理念を持ち、最終的なゴールが決まっているのが大きな特徴ではないでしょうか。

——三育は少人数教育が一つの特徴だと思えますが、それによって教師と保護者との関係も密になっていきます。子どもがよい印象を親に伝えていなければ、教師と親の関係も難しいでしょうね。キリスト教について無関心だった親が子どもを通して、少しずつ変わってきたという例はありますか？

中村 三年生になって転入してきた女の子は、毎週木曜日になると、「今日の放課後はお母さんと牧師先生と一緒に聖書の勉強をするんだ」と言って眼を輝かせて話してくれます。親子が

子どもたちの成長や優しさが家庭の中にあふれたときに、親も変わっていくのではないかと思います。



祈りに始まり祈りに終わる学びの中で、人の痛みがわかり、喜びを分かち合える心を育てています。

同じ目線で学びができるのは、

子どもにとってもうれしいことなんです。

——キリスト教の神髄として愛がありますが、この愛を教育の現場ではどのように伝えておられますか？子どもを愛するとは、どのようなことなのでしょう？

岩崎 自己肯定感が低く、「もういいや」とか「どうせ自分は」という言葉がつい出てしまう子どもは少なくないんです。十分に愛される経験がなければ、人を愛することはできないと思います。子どもたちには、今のあがままの自分を受け入れ、自分が必要とされているかけがえのない存在なんだということを体験的に伝えることができます。

と思っています。

中村 他者を愛する前に、まずは自分を愛することが前提となります。聖書の中に、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」とありますが、教師も子どもたちも、ともに愛されているという視点から、聖書の学びを深めていくことができると思うんです。

子どもたちの祈り

——教師として子どもたちにいちばん伝えたいのとはどんなことですか？
岩崎 神様がこれからも必ず導いてくださることを知ってほしいと思います。子どもたちが困難に直面したとき、本当の助けを求めることができる方を知っ

ているというのは、子どもたちの人生にとって、とても大きな力になるのではないかと思います。

中村 受け持ちの子どもたちには、神様のことが大好きだと自分の口で言えるようになるとうと話しています。親や家族が大好きなのは無条件の信頼があるからで、これは神様を信頼することと同じことなんだと伝えていきます。子どもたちの中で何か問題が起こったとき、その子のためにみんなで祈ったり指導することができるとは、三育の大きな特徴ではないかと思っています。

——「神様、大好き」と子どもが言う前に、「神様は君のことが大好きなんだよ」ということが伝えられると



いうことですね。

草野 このあいだ参観した東京三育小学校の聖書の授業の中で、祈りのリストを作っていました。自分のための祈りもあつたと思いますが、風邪をひいている友だちや、知りあいの方の病氣のためにとか、いろいろなことをリストにして祈るシーンとした時間があつたのです。今の利己的な社会の中にあつて、子どもたちが知らない人のためにも真剣に祈っている姿を見て、私はすごく心が動かされました。

本当の幸せとは？

——卒業後、子どもたちはどんな人間に育ってほしいと思っていますか？

岩崎 十年後、二十年後の成長

幸せというのは、

何も問題がないということではなく、たとえ困難のなかにあつても、それでも希望を持って前向きに歩いていくことではないかと思っています。

した姿を信じて、今の子ども達の現状と向き合うことが大切だと思います。子どもたちには、自分に与えられた賜物を通して、神様と人に奉仕できる人間として成長していつてほしいなと思います。

——戦後の日本はアメリカをモデルに、物の豊かさが幸せに結びつくと考えて、高度経済成長を推進してき

ました。しかし、バブルが崩壊したあと、人間の幸せは、地位でも財産でもないことに気づきながら、それをはっきりと言えないためにもがいているような気がしています。そのような状況の中で、どうすれば本当の幸せをつかめるようになるのでしょうか？

中村 子どもたちには、偏差値を上げ、希望する大学に入るた

めの進路指導ではなく、何のため

に生きるのか、何のために働くのか、何のために学ぶのかという意味を問いかけていくことが必要なのではないかと思います。

草野 幸せというのは、何も問題がないということではなく、たとえ困難のなかにあつても、それでも希望を持って前向きに歩いていくことではないかと思っています。「情けは人の為ならず」ということわざがありますが、自分の損得を忘れ、他者のために生きるということが幸せにつながるのではないかと思うんです。

——聖書を学んで、子どもが変わったという事例はありますか？

岩崎 以前、東京三育で働いて

いたとき、やんちゃな男の子がいました。みんなで遊んでいるとき、ルールを守らないで、たいたいするんです。

あるとき、十五分休みが終わり、「もうあんな子と遊びたくない」と泣きながら訴えてくる子がいきました。その子が昼休みに、あの男の子と遊んでいたんです。私はとっても不思議に思つて、理由を聞いたところ、「あの子は誰も仲間に入れてもらえずに、一人で遊んでいたんだよ。だから僕と一緒に遊んであげたんだ」と言つたのです。そのとき、やはり聖書の大事なメッセージが伝わっているんだと思いました。

少人数学級は社会の縮図

——函館三育小学校は数年前に単式から複式になりましたが、メリットとしてどんなことが挙げられますか？

草野 児童の総数が少ないので、上級生と下級生の仲がいいですね。六年生が卒業する間際になると、五年生が不安定になるくらいです。それに、子どもたちがすごく主体的ですね。教師の数が少ないので、自分たちで動かなくてはなりません。たとえば、一年生が入学してくると、同じ教室にいる二年生がすべてやってくれるので、担任はただ見守っていればいいという感じです。そういう意味で、上の学



横浜三育小学校

Yokohama



知的好奇心を引き出し、主体的な学びを通して、本物の知恵を培っています。



東京三育小学校

Tokyo



教育の土台であるキリスト教の精神を通し、人生を切り拓く力を養っています。

函館三育小学校

Hakodate



心と体の健康づくりのために、さまざまな体験学習に取り組んでいます。

年が下の学年の世話をする事によって、主体的になるんですね。自分で考えて勉強しなければならぬという意味では、大人になる準備を早いうちからしているのではないかと思います。**中村** 私は以前、北浦三育中学校で働いていましたが、全寮制でしたので、子どもたちが大きく成長する姿をたくさん見てきました。役割を与えられ期待されたとき、子どもたちはそれに応えようとして頑張ります。一学年三十名規模の少人数ですが、新入生が卒業していくときには、親や教師が考えている以上の成長が見られます。

草野 少人数学級の良さということでは、子どもたち一人ひとりを見ることができるといこうとはならないかと思えます。先ほど愛という話が出ましたが、もっとわかりやすく言うと、相手を認める、相手を大切にすることが愛だと思えます。毎日、全員と話ができるというのが少人数学級の担任として、大きなメリットではないかと思えます。

——教室には他の学年の子どもたちもいるので、教師が複眼的に子どもたちを見ることができるメリットもあるのかなと思います。逆に、デメリットはありますか？
草野 たとえば、一つの意見が出たとき、それにみんなが傾倒して、他の意見が出にくかったりとか、体育の時間に球技をする際に人数が足りないことなどがあ

祈り、考え、奉仕する
愛の教育
三育小学校の現場から

そういうもめ事の中で妥協点を見つけていくというような訓練を小学校のうちからしてもらえ、るのはとても大事なことだし、異年齢の子どもたちがいることは社会の縮図なので、とても有り難いと評価してくださる方も多いですね。

チャレンジ

——最後に、三育小学校の教師として、ぜひこれをやっていきたくて思うようなことはありませんか？

岩崎 学校のすべての活動において、聖書の価値観を中心にした授業づくり、行事づくりを念頭に置き、聖書の大切なメッセージを、子どもたちだけではなく、保護者にもお伝えすること

大事にしたいのは、
子どもたち一人ひとりを、
愛をもって接するということです。

ができればと思っています。

大事にしたいのは、子どもたち一人ひとりを、愛をもって接するということです。授業や行事など、学校全体の雰囲気を通して愛がふれるような場にしていければと思っています。

中村 小学校での働きの中で大切だと考えていることの一つが、子どもたちを三育中学校に進学させることです。地元の学校へ行きながら教会へ通うのはとてもハードルが高く、大変なこと

です。六年間学んだ聖書を、さ

らに中学、高校で深めていってほしいと願っています。そして、寮生活こそが、子どもの自立を育て、他者を認め合う体験ができる場だと確信しています。そのことを、声を大にして子どもたちや保護者の方々に伝えていくことが私の使命であると思っています。

草野 私は今、大学院で「主体的な学びの工夫」を課題研究に挙げています。これを選んだの

は、世の中の多様性、情報化の中で、子どもたちが主体的に何かを選び取っていかないと、自分で判断できない人間になってしまうからです。人から言われたことに従って生きるのではなく、自分から知識を得、多くの情報から正しいものを判断し、行動していく力が必要だと思います。これを、小学校の学びの中で表現すると「主体的な学び」になるのではないかと考えました。そのためには、授業や学校行事の中で自分の課題を決め、それを自分の言葉でまとめてみる。自分だけではなく、他の人と共有してみる。自分と意見が違えば話し合いというプロセスを通してさらに何かを発見して

いくという過程を大事にしていきたいと思っています。

——以前に函館教会で牧師をしていたとき、函館三育小学校の五年生の男の子が私の膝の上に乗り、「先生、おれ、一年生からやり直したいな」と言ってきたんです。小学生も人生をやり直したいと思っているんだと知って、ちょっとびっくりしました。そういう思いを持っている子どもたちがけっこういるのではないかと考えています。

聖書の学びの中で、いつでも人は生まれ変わることができる、いつでもやり直すことができるというメッセージが伝えられたいと思うんですね。今日はお忙しいところ、ありがとうございました。

(構成・永田)



なかむら じゅん

1976年、横浜市出身。広島三育学院高等学校、日本体育大学体育学部健康学科卒業後、北浦三育中学校保健体育科教諭、担任、男子寮舎監長。その後玉川大学で小学校教員免許を科目履修し、現在、東京三育小学校教諭。



いわさき たいち

1983年、山形県出身。基督教独立学園高等学校、明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業後、三育学院カレッジキリスト教教育学科に学び、小学校教員免許状を取得する。東京三育小学校を経て、現在、横浜三育小学校教諭。



くさの ともこ

1975年、東京都出身。広島三育学院高等学校、岡山理科大学理学部化学科卒業後、沖縄三育中学校理科教諭、担任、女子寮舎監。その後、公立の補助教諭を経て函館三育小学校教諭に。2014年3月に同校を退職し、4月より東京学芸大学教職大学院に在学中。

祈り、考え、奉仕する
愛の教育
三育小学校の現場から

